

# 会 議 録

## 第6回定例会

開会 令和6年6月24日

## 教育委員会会議録

1 開 会 令和6年6月24日 午前10時

2 閉 会 令和6年6月24日 午前11時30分

### 3 教育委員会出席者

教育長	中川 齊史
委員	島 隆寛
委員	三木 千佳子
委員	河野 暁
委員	岡本 弘子
委員	横田 賢二

### 4 教育長及び委員以外の出席者

副 教 育 長	松本 光裕
教 育 次 長	海老名 正規
教 育 次 長	真相 秀也
教 育 創 生 課 長	藤坂 仁貴
義 務 教 育 課 長	長谷 彰彦
特 別 支 援 教 育 課 長	中山 登
いじめ・不登校対策課長	福多 博史
体 育 健 康 安 全 課 長	鳴川 幸恵
教 育 政 策 課 長	内海 はやと
教 育 政 策 課 副 課 長	櫻木 大介

[開 会]

教育長 定例会を開会する旨を告げる。

[会議録の承認]

教育長 配付されている会議録を承認して差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 会議録を承認する旨を告げる。

[教育長報告]

副教育長 6月定例県議会における質疑応答の概要について報告する。

〈質 疑〉

特になし。

[議 事]

教育長 議案第15号及び報告事項1を非公開として差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 そのように取り計らうこととし、議事に入ることを告げる。

《議案第14号 令和7年度徳島県公立高等学校生徒募集選抜要項について》

教育長 説明を求める。

教育創生課長 内容等を説明する。

〈質 疑〉

島委員：通学区域制がどうなるかで変わってくると思うが、普通科の高校でなかなか差別化は難しいと聞いている。傾斜配点以外に特別進学クラスを作るとか、なにか生徒を集めるために施策をやっているような普通科高校はあるのか。

教育創生課長：今回スクール・ポリシーを見直しているが、その中にも進学クラスを設けていることを書いている高校もある。また、ポリシーでスーパー

サイエンスハイスクールを全面に出している高校もある。そういった所で差別化を図っていただければと思っている。

島委員：差別化するのであれば、周知が大切。

三木委員：すでに取り組みられていることだと思うが、学区制の話をいろんな方から聞く機会があり、通える範囲にある学校の進学率を上げるとか質を上げるといふ努力をして欲しいとの声が多い。学校も努力はされていると思うが、あまり聞こえてこない。学区制の見直しのことばかりが今すごく世間に広まってしまっていると思うので、今ある学校の底上げをもう少ししていただきたい。あと、実際に底上げできるような取組を是非お願いしたい。

教育創生課長：この後報告する募集案内の方で進学状況は載せている。またホームページにも載せている。

三木委員：学区制廃止の方がインパクトが強いのでなかなかホームページまで見ない方が多い。

河野委員：高校も色々やってくれていると思う。いい生徒、やる気のある生徒が来てほしい。そこまでの点数がなかったらよそへ行ってしまうことがあるので、総合的には見てくれているとは思いますが、やる気とか、学力の方はどうしても気になってしまうので非常に難しい。地元の高校が力を入れて、やる気のある生徒、学力のある生徒が来てほしいと思うのと、なかなかきてくれない状況というのはあり得る。相反して難しいこと。中学校も生徒の意識を変えていったら違うんだらうけど。市内に行かないといけないという意識が高くなったら、地元の方が置き去りにされてしまうことがある。中学校も高校も変わらないといけない。総合的に変えていかないとけない。学区制だけではない気がする。

岡本委員：入試制度だけの問題ではなく、教育全体、徳島県全体の大きな問題として、やはり中学生の段階から、どういう風に生きていきたいから高校に向けて頑張るんだというような意識が必要である。今の状況を見ていると、この点数に合うからここみたいな、点数、偏差値で振り分けられてしまって、高校もそういう風な受入れ方をして、大学に向けていくところがあると思う。やはり将来を見据えて、どういうふうな生き方で、もっと大きく言えばどういうふうな徳島を作っていきたいから、この高校はこう頑張っているんだとか。中学校は、この子たちはこういうふうなことを目指しているから、もっと頑張って勉強させないといけないというような意識を付けていく必要があると思っている。もう何十年も前から、この点数でいけるからここ、この点数で振り分けてという流れができてしまっているから、難しいことではあると思うが、大きな視点で高校も頑張ってもらいたいと思う。

教育長 議案第14号を原案どおり決定してよいか諮る。  
各委員 異議なし。  
教育長 議案第14号を原案どおり決定する旨を告げる。

《報告事項2 令和7年度徳島県公立高等学校入学者選抜生徒募集案内について》

教育長 報告を求める。  
教育創生課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

島委員：入試難易度から勘案して、入りやすく、かつ推薦枠があり大学に行きやすい高校の人気の高まるという話を聞いたことがある。将来やりたいことと、推薦枠のある大学がきちんとリンクしているのであればよいと思う。できれば、どの大学の推薦枠を持っているのかという情報がオープンになっている方がフェアでいいのではと思う。

教育創生課長：生徒募集案内の学校情報のページには、学校の紹介とか部活動、入試の情報は掲載しているが、推薦枠に関しては各学校に問い合わせただくことになる。

三木委員：推薦枠の情報はどこを探してもない。過去の進学実績を見たらそれで分かるでしょうという返事しか返ってこない。あえて情報を提示しないのか。

真相教育次長：国公立に関しては、推薦枠が学校にあることはない。一斉に出願できるので、例えばA高校だけが持っているということはない。私立に関してはそれぞれの高校に推薦枠があるが、私立は毎年見直しをして、9月ぐらいまでに更新してくる。例えば去年まで難関大学の推薦があったが、今年もあるかというのは9月ぐらいまでわからない。そのため、情報を出しにくいというのはある。

三木委員：色々な方から、進学率の情報以外は見ていないという話を聞いたことがある。大事なのでここに載せてもいいが、せっかくこれだけ考えて作っているものが、保護者の目にとまらないのは残念に思う。こういう情報こそ、2次元コードでホームページに入って、他を見た後でないと見られないような仕様にしないとよかった。

教育創生課長：2次元コードからホームページに入っていると、スクールポリシーの全体版が見られるようになっている。

三木委員：スクールポリシーを見に行くと、進学実績が見られるという仕様がよい。

下の進学実績だけを見て、そこで判断してしまい、上の部分を見ていないという話を聞いたもので。

教育長：長年、点数で進路を決めてきたというのが染みついている。高校の在り方が何なのか、存在意義が何かということ問い直されている。しかし、これがなかなか周知されていない。本当に大事なことだと思う。

《議案第16号 令和7年度徳島県立特別支援学校高等部生徒募集選抜要項について》

教育長 説明を求める。  
特別支援教育課長 内容等を説明する。

〈質 疑〉

河野委員：いろいろ対応していると思うが、Jアラートの実施日と試験日が重なるとするのは、事前に保護者にも周知するとしても、できれば避けたいところだが、無理なのか。休憩時間にして対応するということか。

特別支援教育課長：10時55分から11時05分までの10分間は検査に関わらないように予定を組ませてもらっている。

河野委員：周知徹底しかない。これがあるんだから、携帯電話を持ってきていたら電源を切るとか、障がいのある方が1度パニックになったらなかなか回復できないということもある。

特別支援教育課長：Jアラートの試験放送は、毎年中学校の段階でも耳にしている音声ではある。特別支援学校に中学校側と連携してもらい、試験放送を耳にした時の生徒の様子がどういう状況なのか、事前に聞き取り、対応が必要な状況があれば、別室で落ち着いてから次の検査に入ってもらえる等の対応を考えている。

河野委員：普段と入試という大事な時ということで、精神的な状況も違う。十分な配慮が必要だと思う。

特別支援教育課長：学校と十分連携して進めていく。

岡本委員：私も同じことを心配している。普段と違う状況、緊張した中で、どうなるかが不確定だと思うが、そうした時の後の配慮を柔軟にさせていただくようお願いしたい。それと、ホームページに入ったら分かるのかも知れないが、高等学校を選ぶ、特別支援学校を選ぶということは、その先の、その人たちの将来に向けてどのような進路があるのかということが、保護者の方にとっては分かりにくいところだと思う。迷いながらその先を目指していくと思うが、先が見えるような情報をどこかに付けてくれると、保護者の方

も安心できると思うので、お願いしたい。

特別支援教育課長：そういうところも、学校の魅力、良いところを情報発信できるよ  
う学校と連携していきたい。

教育長 議案第16号を原案どおり決定してよいか諮る。

各委員 異議なし。

教育長 議案第16号を原案どおり決定する旨を告げる。

《報告事項3 令和7年度徳島県立特別支援学校高等部生徒募集選抜実施要領一覧について》

教育長 報告を求める。

特別支援教育課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

特になし。

《報告事項4 令和6年度第1回徳島県いじめ問題等対策審議会の議事内容について》

教育長 報告を求める。

いじめ・不登校対策課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

三木委員：いじめの認知件数が増えることは、小さなことも認知していることから非常に  
良いことだと受け止めている。そのことについて、説明していると思うが、認  
知件数の数値だけ見ている人もいる。認知件数が増加した理由についてもしっ  
かり周知しないと、誤解を招く恐れがあるのではないか。

いじめ・不登校対策課長：学校においても認知件数の増加は、積極的な認知によるもので  
早期発見・早期対応につながると考えており、より積極的な認  
知をお願いしている。今後、家庭や地域社会に対し更に周知し  
ていく。

島委員：全国的に不登校が増えているが、いじめとの相関関係はあるのか。それとも、関  
係なく家庭の問題等で増えているのか。

いじめ・不登校対策課長：不登校の児童生徒数については、令和4年度の問題行動調査に  
よると過去最多となっている。要因については、いじめが原因

となっている場合もあるが、全体の割合では少ない。不登校児童生徒の要因については、いじめがなかったか慎重に判断し、いじめの未然防止・早期発見につなげていきたい。

島委員：いじめではないが学校に居場所がない、友達がいない、他の生徒と関わるのが好きではない等の理由もある。

いじめ・不登校対策課長：人間関係のトラブルや様々な状況があり、不登校児童生徒の背景や原因についてしっかり考えていく必要がある。

岡本委員：審議会委員の意見の中に、現場が疲弊し教員数が足りないという意見が出ているが、それが原因で見逃しや対応の遅れがあってはならない。認知件数が増加していることは、アンテナを張ってしっかり見ているということ。認知した内容に対し、どう対処していくか校内でしっかり議論してほしい。また、認知している部分は氷山の一角であって、その下には大きな問題が潜んでいる可能性があることも考え対策を立て取り組んでほしい。

いじめ・不登校対策課長：学校現場において、組織的な対応を進めていく。審議会委員の意見については、教員の疲弊や教員数の不足によって、対応が遅れたり発見を見逃すということではなく、現場の現状を報告していただいたと考えている。

#### 《報告事項5 令和6年度中学校トップスポーツ競技育成事業選考結果について》

教育長 報告を求める。

体育健康安全課長 内容等を報告する。

#### 〈質 疑〉

河野委員：この補助金の指定校を受ければ補助金がいただけるということだが、指導者の派遣など人的な補助はないのか。

体育健康安全課長：指導者の派遣についても、費用から出せる。この中の費用としては、有力校との合宿や専門の講師を招いての講習会や強化練習会、県外選手との交流のなかで、競う場である全国大会を意識しながら、中学生に認識を与えながら強化をしている。

[非公開]

#### 《議案第15号 徳島県教科用図書選定審議会の答申について》

《報告事項1 服務上の措置の実施状況について》

[閉 会]

教育長 本日の議事が全て終了したので閉会する旨を告げる。

閉 会 午前11時30分